

4. 社会科

4.1 社会科における現状と課題

社会科の現状として、小学校では担任が複数教科を担当する利点を生かし、生活経験や既存の知識を基にして問いを立てるなど、多くの児童が一生懸命課題解決に向かう姿が見られる。一方で、中学校では、小学校での基礎的な学習を土台として、より多面的・多角的に分析し、深い学びへと発展させる指導がなされているが、社会的事象や課題に対して自分との関わりを見いだせず興味・関心が薄い生徒も見受けられる。小中における共通の課題は、社会的な事象や人物に関する理解が、名称や出来事といった断片的な知識に留まっている点である。

特に小学校の歴史分野で「名称や内容の把握（点）」のみになると、中学校での「時代の特色を踏まえた関連付けと時代の流れの理解（線）」へ移行する際、生徒が困難を感じるという課題がある。こうした点から線への接続を円滑にするためには、小中それぞれの教員が互いの指導法を知り、単元の導入から終末に至るまで、事象を具体的にイメージしながら知識を構造化できる学習課題が必要であることが課題として挙げられた（図 34）。



図 34 社会科グループの協議の様子

4.2 研究の視点と授業改善の工夫

本研究では、小中一貫した課題解決の過程を重視する学習活動の構築を目指した。具体的には、単元を貫く問いを設定し、児童

が自ら情報を収集・分析する探究的な学びの具現化を視点とした。また、小学校で習得した知識を中学校での多角的な分析へと繋げるため、語句の暗記に留まらず、時代背景や事象との因果関係を説明できる力の育成を授業改善の柱とした。

4.3 授業実践と研究協議

(1) 授業実践の概要

小学校第6学年の歴史分野において、「天下統一」を目指した織田信長と豊臣秀吉の政策を調べる学習を展開した。本実践では、あえて中学校の授業デザインに近い「課題設定→用語の共有→検討」という流れを取り入れ、児童の学習の様子を検証した。

①導入（課題設定）

従来の小学校での資料提示から疑問を見いだす流れではなく、冒頭に単元を貫く問いを提示し、教科書から関連する文章を読み取る活動を行った。児童にとっては、事前の知識が少ない状態で課題に向き合うこととなり、予想を立てる場面では思考の手掛かりが少なく、これまでの学習スタイルとの違いに戸惑う姿も見られた。しかし、何を調べるべきかという目的意識をもつことはできていた（図 35）。



図 35 課題設定の様子

②展開（調べ学習）

個別の学習時間では、指定されたページの教科書を読み、織田信長や豊臣秀吉の政策について調べた。ノートにメモしていく

児童が多く、矢印で用語を結び付けるなど工夫をしている児童も見られた(図36)。一方で、情報の取捨選択に時間を要し、定められた時間内に自分の考えとしてまとめることができなかった児童もあり、教科書から情報を収集する技能の個人差が顕著に現れた。



図36 教科書を読み取る児童の様子

③終末(多角的な視点の共有)

終末の全体共有では、調べた政策を整理した。その後、天下統一に一番効果があった政策を各自が予想し(テーマ選択)、次の時間からの調べ学習に向けた準備をした(図37)。



図37 テーマ選択の様子

(2) 研究協議における論点と系統性の視点

研究協議では、事前授業との比較や授業者による振り返りを通し、社会科における探究の質を高めるための以下の二つの論点共有された。

①本授業では、中学校でよく使われる授業デザインに寄せた「課題提示型(単元を貫く問いの設定)」を試みたが、児童の実態から、小学校では「資料提示→疑問→予想→課題設定」という手順を踏む方が、多角的な視点で資料を読み込めることが再確認された。ここから、小中の系統性を「サイクルの大きさ」で捉える視点が得られた。小学校では、小さな範囲でこのサイクルを回す「小サイクル」によって基礎的な知識と技能を習得し、中学校ではそれらを土台に、より広い背景を関連付けながら、単元全体などの「大サイクル」で深く学ぶ。この段階的な移行を通して、社会科における事象の背景や関わりを深く理解する学びを目指すことが共有された。

②中学校の推進委員からは、小学校の「資料→疑問→課題」の流れを中学校の授業に導入したところ、生徒が主体的に課題を設定できたということが報告された。中学校では説明型の授業を優先しがちであるが、今回の実践を通し、教師主導で答えを導き出すのではなく、生徒がじっくりと考える場の設定が必要であり、生徒に委ねる内容を見極める重要性が共有された。小学校の資料活用と発問の工夫を中学校が取り入れることで、9年間の学びが途切れない、主体的・対話的で深い学びの実現へと繋がることが示唆された。

4.4 本実践を踏まえた授業モデルとその他のポイント

本研究の成果に基づき、社会科の授業改善に向けた系統的なモデルと改善ポイントを以下のように提案する。

(1) 授業モデル

①小学校(小サイクル)

「資料提示→疑問→学習課題の設定→予想→調べ学習→解決」という一連の流れを、小さな範囲で繰り返す。

・資料から事実を読み取り、用語を習得し

ながら知識を身に付ける。

・児童の素朴な疑問や予想を大切にすることで、多角的に資料を読み込む意欲を喚起する。

②中学校（大サイクル）

単元全体を貫く大きな問いに対して、小学校で習得した知識や多様な資料を関連付けて解決していく。

・事実と事実を結び、歴史的な背景や因果関係（背景・意図・結果）を多角的に説明できる力を養う。

・戦国時代における変化など、抽象度の高いテーマを設定し、事象の関連性を構造的に捉えられるようにする。

（２）その他のポイント

・「委ねる内容」の精選

中学校における授業時数を考慮しつつも、授業を教師主導で行うのではなく、じっくりと生徒に思考を委ねる単元や場면을精選する。小学校で培われた資料から課題を見いだす力を中学校でも積極的に活用することで、生徒の主体性を引き出し、学びの質を向上させる。

・情報を収集、整理する力の育成

教科書や資料から必要な情報を収集し、整理する力は、個別最適な学びを支える基盤である。これを個人の能力に委ねず、「いつまでに、どのような技能を身に付けるか」という共通の視点を持ち、計画的に指導する必要がある。

・変化を捉える視点

語句を覚えることから時代の流れを説明することへ重点を移す。小学校段階から「なぜこの政策が行われたのか（意図）」「その結果、社会はどのように変わったのか（影響）」という問いを繰り返し投げかけることで、中学校での歴史に関する事象に対する考察への橋渡しを行う。

授業実践（小学校）第6学年社会科

1 単元（題材）名

戦国の世の統一（日本文教出版「小学社会6年」）

2 単元の目標

・キリスト教の伝来、織田・豊臣による様々な政策を手掛かりに、戦国の世が統一されたことを理解することができる。 【知識及び技能】

・図や資料から、世の中の様子や人物の働きを読み解き、織田・豊臣の武将によって戦国の世が統一されていったことについて関連付けて考え、適切に表現することができる。

【思考・判断・表現】

・キリスト教の伝来、織田・豊臣による様々な政策について調べたことをもとに多角的に考え、主体的に学習の問題を解決しようとしている。 【学びに向かう力、人間性等】

3 指導によせて

(1) 目指す子どもの姿（内容の系統性）

ベースとなる力（以前の単元で付けた力）

図や資料から読み取り、相互に比較したり、関連付けて考えたりして、社会的事象の特徴を捉える力。



本単元で付けたい力

戦国の世が統一されたことを、当時の世の中と政策の背景と関連付けて考える力。
2人の武将がとった各政策がどのような結果をもたらしたか考える力。



本単元で付けた力が生かせるであろう新しい単元

武士による政治が安定したことを、豊臣秀吉の政治と比較し、江戸幕府の政策と関連付けて考える力。

(2) 小中連携を意識した学びの実現のために

小学校の社会科の学習指導要領の目標の柱書には、社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎の育成について書かれている。

中学校では、時代の特色をふまえながら、各事象を関連付けて考えて時代の流れを理解する力が重要とされている。それをふまえ、小学校では事象についての名称や内容を把握するだけでなく、その背景や結果を説明できる力が必要と考えた。

今回の歴史的分野の単元では、まず長篠の戦いの図を学習の導入資料として取り上げ、戦国時代の代表的な武将や新たに戦場で使われるようになった鉄砲について紹介する。そして第2時からは、天下統一に向かい大きく勢力を広げた又は統一を為した二人の武将が、どのような政策をもって世を治めていったかを調べていく。

単元を貫く学習課題を設定し、その際に、政策の内容だけでなく、意図（その政策を行った結果どうなって、天下統一につながったのか）について考え表現できるようにしたい。そのため、一人一人が担当する政策を決め、調べる活動を設定した。その際に、周りの人との協働・交流を取り入れ、自分の考えを補填したり、一つの事象に対して様々な見方をしたりできるようにする。他の政策についても交流し、再度、天下統一に一番効果的だった政策は何なのか自分の考えをまとめ、学びの再構築をねらいたい。

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・キリスト教の伝来、織田・豊臣による様々な政策を手掛かりに、戦国の世が統一されたことを理解している。	・図や資料から、世の中の様子や人物の働きを読み解き、織田・豊臣の武将によって戦国の世が統一されたことについて関連付けて考え、適切に表現している。	・キリスト教の伝来、織田・豊臣による様々の政策について調べたことをもとに多角的に考え、主体的に学習の問題を解決しようとしている。

5 単元の指導と評価の計画（全6時間）

時	主な学習活動	評価規準		
		知	思	態
1	<ul style="list-style-type: none"> ・長篠の戦いの絵を見て、気付いたことを話し合う。 ・織田信長と豊臣秀吉について知る。 		○	○

2 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書から、二人の武将が行った取組について知る。 ①南蛮貿易 ②キリスト教 ③楽市楽座 ④検地 ⑤刀狩 ⑥身分 ・学習課題 「天下統一に一番効果的だったのはどの政策なのだろう？」 ・①～⑥の政策の中で自分が調べたいテーマを決める。 			○
3	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の調べたいテーマについて調べる。(政策の内容・意図) ・同じテーマ同士での交流 	○	○	○
4	<ul style="list-style-type: none"> ・調べたテーマについて、オクリンクのカードにまとめる。 	○	○	○
5	<ul style="list-style-type: none"> ・意見交流 同じテーマ→異なるテーマ→各テーマの代表者の発表 	○	○	○
6	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめ ・どの政策が役に立ったか自分の意見をノートに書く。 	○	○	○

6 本時の目標（本時：2／6時間目）

戦国の世が統一されたことを理解し、それが達成されるためにどのような政策が行われたのか考え、学習課題に見通しをもつことができる。

7 本時の展開

時	主な学習活動等	<ul style="list-style-type: none"> ・指導上の留意点 ◆評価（方法と観点）
導入	<p>1. 前時の復習をする。</p> <p>時代毎の勢力図の違いを比較し、天下統一を為し遂げたことを説明する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時で出てきた織田信長と豊臣秀吉について、思い出せるように写真で示しておく。 ・天下統一ということ視覚的に理解できるように、時代毎の勢力図を示すようにする。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>信長と秀吉が、どんな政策をしたのか調べよう</p> </div> <p>2. 2人の武将が行った政策を教科書で調べる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ページを指定し、調べやすいように伝える。 ・教科書を読み、見つけた政策のキーワードに印をつけるなどして、発表できるようにする。 ・単独解決が難しい児童への支援を行う。

